

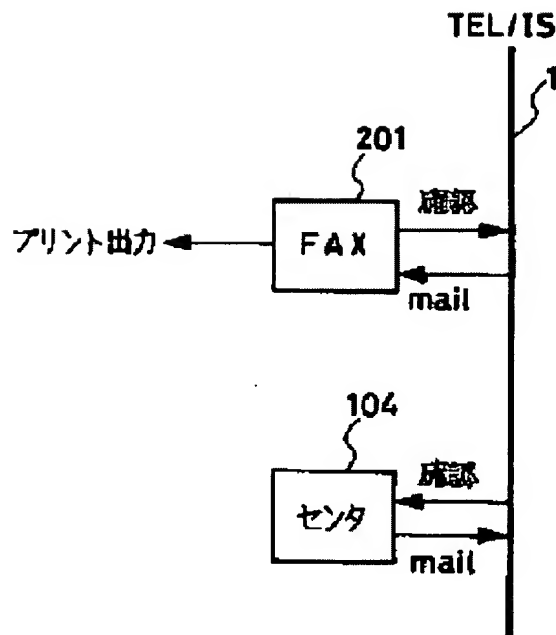
FACSIMILE MACHINE

Patent number: JP11136490
Publication date: 1999-05-21
Inventor: OWADA MITSURU
Applicant: CANON INC
Classification:
 - international: H04N1/32; H04N1/00
 - european:
Application number: JP19970314491 19971030
Priority number(s):

Abstract of JP11136490

PROBLEM TO BE SOLVED: To eliminate the need for an expensive personal computer and also to eliminate such operation as complicated startup of a personal computer by providing a facsimile machine with a function of receiving and sending an electronic mail.

SOLUTION: An electronic mail system, which sends and receives an electronic mail through a telephone line with a center 104 that manages an electronic mail, is provided with a facsimile machine 201, which performs dial connection to the center 104, and confirms whether or not a self-mail exists in the center 104 and automatically receives the mail when it confirms that the self-mail exists. Also, this mail system performs a dial connection from the machine 201 to the center 104 in a prescribed timing and automatically sends a mail which is preliminarily set by character recognition and voice recognition.





1 family member for:

JP11136490

Derived from 1 application.

1 FACSIMILE MACHINE

Publication info: **JP11136490 A** - 1999-05-21

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-136490

(43) 公開日 平成11年(1999) 5月21日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I
H 0 4 N 1/32		H 0 4 N 1/32 Z
1/00	1 0 7	1/00 1 0 7 Z

審査請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平9-314491

(22) 出願日 平成9年(1997)10月30日

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 発明者 大和田 満

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内

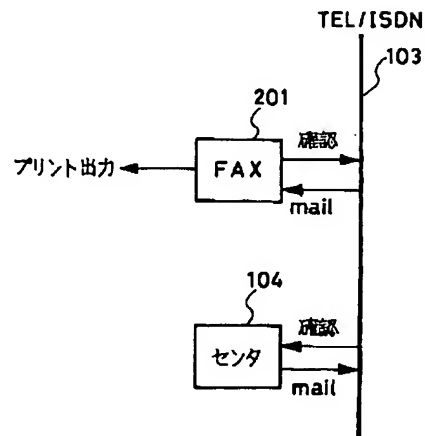
(74) 代理人 弁理士 川久保 新一

(54) 【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57) 【要約】

【課題】 電子メールの受信や送信の機能をファクシミリ装置にもたせることで、高価なパソコンを必要とせず、また煩雑なパソコンの立ち上げ等の操作を解消することを目的とする。

【解決手段】 電子メールの管理を行うセンタと電話回線を介してメールを送受信する電子メールシステムにファクシミリ装置を設け、ファクシミリ装置より、センタにダイヤル接続を行い、センタに自己のメールが存在するか否かを確認し、自己のメールが存在すると確認できた場合に、そのメールを自動的に受信する。また、ファクシミリ装置からセンタに所定のタイミングでダイヤル接続し、文字認識や音声認識によって予め設定されたメールを自動的にセンタに送信する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 電子メールの管理を行うセンタと電話回線を介してメールを送受信する電子メールシステムにおいて、

所定のタイミングで前記センタにダイヤル接続を行う接続手段と、

前記センタに自己のメールが存在するか否かを確認する確認手段と、

前記確認手段によって自己のメールが存在すると確認できた場合に、そのメールを自動的に受信する受信手段と、

を有することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】 請求項1において、

受信したメールを記憶手段に保持するとともに、プリント出力することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項3】 電子メールの管理を行うセンタと電話回線を介してメールを送受信する電子メールシステムにおいて、

所定のタイミングで前記センタにダイヤル接続を行う接続手段と、

予め設定されたメールを自動的にセンタに送信する送信手段と、

を有することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項4】 請求項3において、

読取装置にセットされた画像を読み込み、この読み取った画像に含まれる文字を自動認識する文字認識手段を有し、前記文字認識手段によって認識したデータを前記メールとして送信することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項5】 請求項3において、

音声メッセージを入力する音声入力手段と、入力された音声メッセージに含まれる文字を音声認識によって自動認識する音声認識手段とを有し、前記音声認識手段によって認識したデータを前記メールとして送信することを特徴とするファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電子メールシステムに適用して有用なファクシミリ装置である。

【0002】

【従来の技術】近年、インターネットを用いてメールを伝送する電子メールシステムが構築され普及している。これは一般にE-mailと呼ばれ、全世界的に送受信することができる。

【0003】図4は、一般家庭等において用いられる一般的な電子メールシステムの構成を示すブロック図である。

【0004】図において、汎用のパーソナルコンピュータ（以下、パソコンという）101は、モデム102を介して電話回線103に接続することで、パソコン10

1と外部とでデータの送受信が可能となる。電話回線103は、各種ネットワークに接続され、通常の電話サービスやISDN(Integrated Services Digital Network)サービス等を利用することが可能である。

【0005】また、センタ104は、パソコン101を各種ネットワークに接続するためのものである。すなわち、インターネットを利用する場合には、センタ104は、不図示の専用回線等によりインターネットに接続しサービスを提供する。また、パソコン通信のようなシステムであれば、センタ104で集中管理をし、電話回線103によりサービスを提供する。いずれにしても、センタ104では各ユーザからのメールを受信し、その宛先へメールを配信する。

【0006】一方、ユーザが電子メールを送受信するには、一度、パソコン101を起動し、通信のためのアプリケーションを起動し、さらにセンタ104にモデム102を介して電話接続をするダイヤルアップの動作が必要である。以上の一連の動作により、電子メールの自分宛のメールの有無を知ることが可能となる。また、そのメールを受信してパソコン101に取り込み、必要であればパソコン101に接続されたプリンタ105に出力することができる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述のようにして電子メールの送受信を行うには、高価なパソコン等が必要となり、またパソコンを起動して、さらに所定の操作をする必要があった。そのため、メールを容易に扱うことができず、家庭等において、円滑な情報の伝達を行うことは容易ではなかった。

【0008】そこで本発明は、電子メールの受信や送信の機能をファクシミリ装置にもたせることで、高価なパソコンを必要とせず、また煩雑なパソコンの立ち上げ等の操作を解消することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明は、電子メールの管理を行うセンタと電話回線を介してメールを送受信する電子メールシステムにおいて、所定のタイミングで前記センタにダイヤル接続を行う接続手段と、前記センタに自己のメールが存在するか否かを確認する確認手段と、前記確認手段によって自己のメールが存在すると確認できた場合に、そのメールを自動的に受信する受信手段とを有することを特徴とする。

【0010】また、本発明は、電子メールの管理を行うセンタと電話回線を介してメールを送受信する電子メールシステムにおいて、所定のタイミングで前記センタにダイヤル接続を行う接続手段と、予め設定されたメールを自動的にセンタに送信する送信手段とを有することを特徴とする。

【0011】

【発明の実施の形態および実施例】図1は、本発明の第

1実施例による電子メールシステムの構成を示すブロック図である。なお、図5に示す従来例と同様の構成については同一符号を付してある。また、図2は、上記第1実施例におけるファクシミリ装置（以下FAXという）の動作を示すフローチャートである。

【0012】図1に示すように、電話回線103には、FAX201とセンタ104が接続されている。そして、電子メール等の受信をする際には、例えば定期的にFAX201から電話回線103を介して、センタ104へダイヤル接続を行う。

【0013】FAX201は事前に設定されたプロトコルにより、センタ104内の自分宛のメールを確認しその内容を受信する。受信した内容はFAX201内でメモリに記憶し、また必要であればプリント出力を行う。

【0014】図2において、まず、ステップ01（S01）では、FAX201はユーザからの要求または予め決められた時刻に自動的に電話回線を介してセンタ104へダイヤル接続を行う。この際、予め設定されたプロトコルに従い、ユーザの確認等を行う。センタ104には予めユーザ登録が行われているものとする。そして、ユーザであると確認されたら、ステップ02（S02）に進む。また、そうでない場合には、終了する。

【0015】ステップ02（S02）では、そのユーザの着信メールや未読メール等のメール状態を判断し、その内容を受信し、ステップ03（S03）へ進む。受信する内容がない場合は終了する。

【0016】ステップ03（S03）では、上記ステップ02（S02）で受信したメール等の内容をプリント出力する。また、プリント出力せずに、その内容を記憶していても良い。

【0017】以上の一連の動作により、ファクシミリ装置で簡単、かつ、速やかに電子メールの内容を知ることが可能となる。したがって、容易に電子メールの内容を知ることが可能となり、電子メールを用いての高速な情報の伝達が可能となる。

【0018】次に、図3は、本発明の第2実施例における電子メールシステムの構成を示すブロック図であり、図4は、この第2実施例のFAXの動作を示すフローチャートである。

【0019】図3に示すように、FAX401とセンタ104は電話回線103に接続されている。そして、電子メールの送信をする際には、FAX401から電話回線103を介してセンタ104へダイヤル接続を行う。

【0020】FAX401は、事前に設定されたプロトコルにより、センタ104に接続し自分のメールとして電子メール等を送信する。FAX401が送信するメールは予め原稿等をFAXで読み込み、画像処理により文字変換を行うことにより実現可能である。また、他の入

力手段によりデータを準備しても良い。

【0021】図4において、ステップ11（S11）で送信すべきデータを入力する。たとえばスキャナを用いて画像を入力し、OCR技術により文字認識を行っても良い。また、音声認識技術を用いても良い。ステップ12（S12）へ進むステップ12（S12）では、ステップ11（S11）で入力されたデータを電子メールに送信可能なようにデータやフォーマットの変換を行う。次にステップ13（S13）へ進む。

【0022】ステップ13（S13）では、電話回線103を介してセンタ104に接続し、予め設定されたプロトコルに従ってセンタ104とダイヤル接続を行う。このとき、接続に失敗したら終了する。また、成功したらステップ14（S14）へ進む。

【0023】ステップ14（S14）では、ステップ12（S12）で準備された送信データをセンタ104へ送信する。

【0024】以上の一連の動作により、パソコン等を用いることなく、簡単に電子メールをFAXで送信することが可能となる。

【0025】なお、以上の実施例では、フローチャートによってソフトウェアの動作として説明したが、同様の機能をハードウェアで構成しても良く、同様の効果が得られるのは言うまでもない。また、送受信の内容をメールに限定して説明したがこの限りではなく、フォーラム・掲示板等の内容であっても同様である。本願の特許請求の範囲では、これらを含めてメールというものとす

る。

【0026】
【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、電子メールの送受信を高価なパソコンを用いることなく、なおかつ簡単に実現することがファクシミリ装置で可能となり、情報の高速伝達が実現できる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例による電子メールシステムの構成を示すブロック図である。

【図2】上記第1実施例の動作を示すフローチャートである。

【図3】本発明の第2実施例による電子メールシステムの構成を示すブロック図である。

【図4】上記第2実施例の動作を示すフローチャートである。

【図5】従来の電子メールシステムの構成例を示すブロック図である。

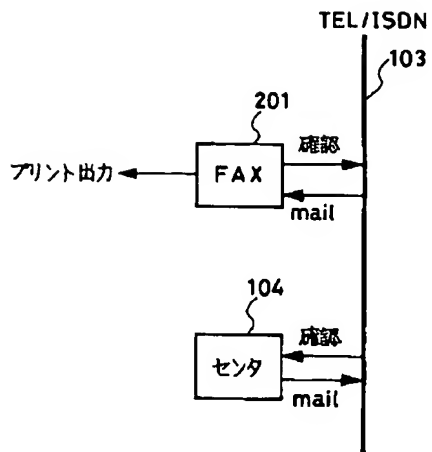
【符号の説明】

103…電話回線、

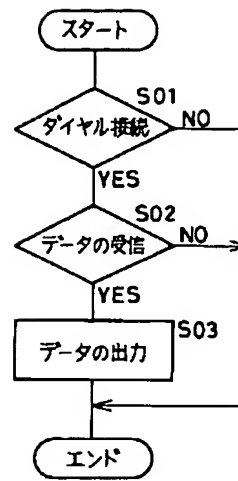
104…センタ、

201、401…FAX。

【図1】

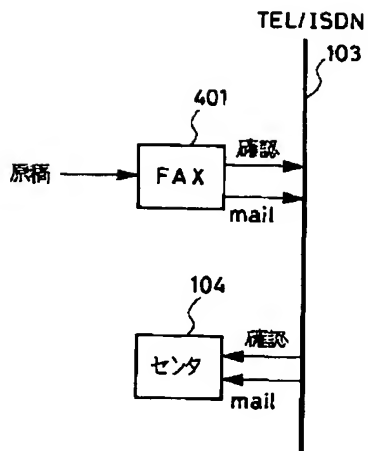


【図2】



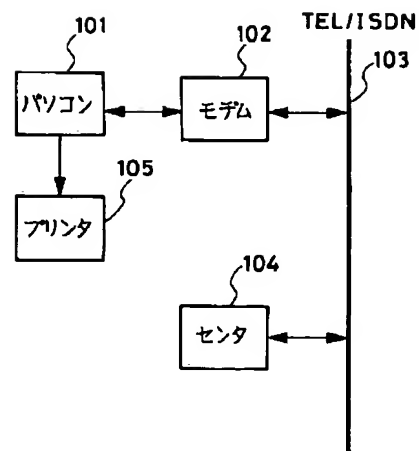
K4135

【図3】



K4135

【図5】



K4135

K4135

【図4】

